

⑥多摩・島しょ地域の市民協働の現状と課題の総括

多摩・島しょ地域の市町村における市民協働の今後の取組意向(【図4】)としては、全体的に、取組拡大に前向きな姿勢であることがうかがえます。一方で、現状の実施推進体制や協働のパートナーへの支援策などの取組度合い(【図11】・【図13】)については、必ずしも満足していない傾向にあります。

また、協働をより良く進めるために必要なもの(【図9】)としては、体制・仕組みに関わる要素は重要ですが、これを上回るものに、目的の明確化、相互理解、対等性の保持といった協働の理念に関わる要素が挙げられています。

以下に、これらが上手く結びつき、協働の成立と取組の継続・発展に至っている事例などを紹介します。

事例紹介 府中市 ～市民協働に本格的に取り組むまち～

府中市では、市長のトップマネジメントのもと、協働の理念を基軸とした市政が積極的に展開されています。庁内の実施推進体制としては、「市民協働推進本部」が立ち上げられており、協働事業は子育て、高齢者福祉、環境などの分野を中心に160以上にわたります。

◎協働事例：「ふちゅう子育て応援団連絡会」

【取組内容】

子育て分野で特徴ある事例に、「ふちゅう子育て応援団連絡会」があります。これは、市内のボランティアなどが主宰する子育てサークル・子育て情報誌発行グループ、府中市などの行政関係団体で結成したもので、今では市内各地の十数の子育てサークルが参加しています。

主な活動に、各団体が活動状況を報告し、学び合い、より良い運営や子育て支援に役立てることなどを目的とした定期的な連絡会議の開催があります。また、年に1度、地域の枠を越え、参加団体などが一堂に会する「ひろげよう！子育てひろばの“わ”」(下写真)を開催しています。このイベントは、子育てひろばの紹介・体験や情報提供の場となり、大勢の親子、妊婦、子育てサークル運営希望者で賑わいます。

【市の関わり方】

地域での子育て支援活動の高まりを受け、市では結成に先立ち、市内の子育てサークルなど関係団体に声を掛け、各団体が集まっての話し合いをもちました。そして、市は協働の可能性を意識しながら、各団体の自主性を妨げないよう配慮しつつ、参加者全体で課題などを共有し、お互いに行えること・できないこと、取組や役割分担などを明確にしていっていったとのこと。この連絡会では、市は参加団体の一員として、市民活動を尊重し「市民が主役」との立場で、運営上の助言やイベントの会場使用料の負担など主に側面的支援を行っています。

行政主導の事例では市民同士の自発的な交流の広がりを阻害してしまうことも起こりがちですが、この事例は、今後更に市民主体の自主性に富んだ発展が期待される取組となっています。

【人と人とのつながりがもたらす様々な効果】

この協働の現場では、子育てが一段落し何か役立ちたいと思うボランティア自身に、やりがいや充実感をもたらしているとのこと。また、参加する親子においても、地域をよく知り人生の先輩でもあるボランティアとの触れ合いは、子育ての充実やリフレッシュはもとより、地域社会との一体感や地域に対する愛着を育むなどの様々な相乗効果をもたらしているとのこと。

また、参加する親子においても、地域をよく知り人生の先輩でもあるボランティアとの触れ合いは、子育ての充実やリフレッシュはもとより、地域社会との一体感や地域に対する愛着を育むなどの様々な相乗効果をもたらしているとのこと。

◎協働推進の取組事例：「市民協働都市宣言」

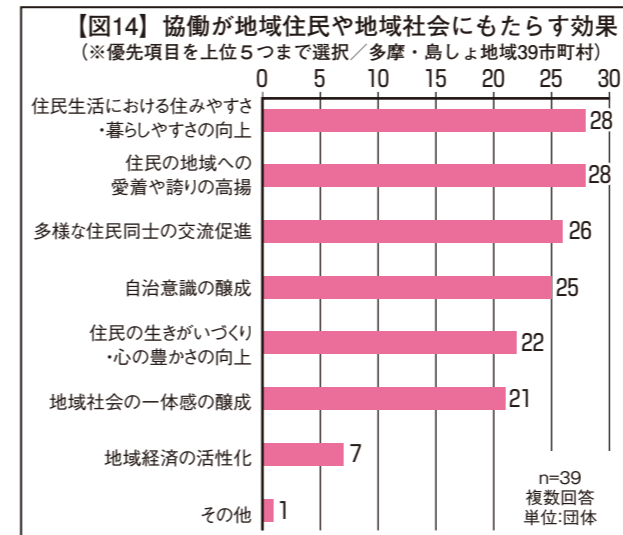
府中市では、本年度市制施行60周年を迎えており、10月開催の記念式典において「市民協働都市宣言」を行うことが予定されています。この宣言では、今後永きにわたり、広く市民、関係団体、事業者、大学等や市職員が一体となって「市民協働」を推進していく決意と願いが込められることとなっています。



3.市民協働が地域住民や地域社会にもたらす効果

行政運営の視点から捉えた前述の「市民協働の意義【図3】」に関連して、地域住民・社会の視点から、協働がどのような効果をもたらすのかについて捉えたものが【図14】・【図15】です。

効果として、住みやすさの向上、地域への愛着の高揚をはじめ、住民の交流促進、自治意識の醸成、生きがいづくり、地域の一体感の醸成、地域経済の活性化などが挙げられています。



府中市の事例のように、住民等の知恵や経験、専門性のほか、地域の文化、自然、物的資源なども取り込んだ協働の取組は、より住民ニーズに合った公共サービスの提供を可能にし、地域の暮らしやすさの向上につながります。

協働を通じて、対等な立場で多様な交流が生まれ、地域の人材や資源が活かすことにより、人々に生きがいや、地域への愛着・誇りが実感されます。また、地域内で人、物、資金、情報が循環することで、様々な経済効果が生じます。

そして、多様なつながりが「てこ」となって、更に取組が活発となる好循環が生まれます。

生活の場である地域環境をより良くしようとする協働が生む地域力の結集は、行政サービスの単なる補完にとどまらず、まさにその理念ゆえに、地域の課題解決力を高め、地域社会にかけがえのない効用をもたらすものと言えます。

【結び】 日頃からの市民協働の心掛け ～地域力に気づき、意識することから～

協働に当たっては多くの苦労や困難もあると思われていますが、市町村職員は、協働について、どのような事を心掛けると良いのでしょうか。

府中市の事例(【市の関わり方】)は、日頃から職員が「協働の可能性」を意識し、市民等の自主活動に目を向け、寄せられる声や困り事に耳を傾けること、協働の機運を感じ取ることがいかに重要であるかを示唆しています。

皆さんの日常業務や身近な出来事の中にも、もしかすると協働につながるきっかけが潜んでいるかもしれません。普段から地元の地域力に着目するとともに、協働の考え方を知り、頭の片隅で意識しているということが、協働の出発点となるのではないかと思います。

また、幅広く業務がある中で、個々に協働に対する適・不適はありますが、現行業務の実施過程などを振り返り、「改めてそこに新たな協働の余地はないか」、「実は“協働”として捉え直すことができ、レベルアップを図れるものはないか」など、新たな発想で現状を見渡してみることも大切なことと思われまます。

そして、その際の協働の具体的な進め方については、職場で定める協働に関する手引などがあれば、再度確認してみたいはいかがでしょうか。

また、当調査会のホームページにも調査研究報告書である「市民活動団体等との協働のススメ～協働のまちづくりの成功の秘訣～」を掲載していますので、ぜひご活用ください。

この調査が、皆さんの市民協働に対する意識向上や積極的な取組の一助となれば幸いです。

【図15】 協働の直接的効果と地域にもたらす波及的・相乗効果



【参考文献】

- 「市民活動団体等との協働のススメ～協働のまちづくりの成功の秘訣～」(平成22年3月/自治調査会発行/ホームページにて閲覧・ダウンロード可)
- 「府中市市民協働の推進に関する基本方針」(平成26年5月)